

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム中伊豆(南・北)

目標達成計画

作成日:平成27年10月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	職員の退職や部署異動等があった事により就業期間が短い職員も居り、入居者とのコミュニケーションは大丈夫だが面会に来所される御家族には馴染みが薄く、会話が苦手な職員もいる状態となっている。	御家族と入居者の関係を把握し、入居者に関する必要な情報交換を円滑に行えるよう、職員全員が入居者御家族と顔の見える関係を作るべく努力する。また、出来るだけ慣れた職員がケア出来るよう離職や部署異動を最小限に留める。	入居者のみならず御家族とも必要な情報交換が為されるよう、職員全員が入居申し込み時の家族構成書類確認と、実際に御来所された際の挨拶などを丁寧に行う。コミュニケーションが苦手な職員には接遇マナーの研修を行う。	3ヶ月
2	35	災害対策が併設特別養護老人ホーム本部によるものと一体となってしまっており、BCPや備蓄品の管理について職員が把握できていない。	グループホーム単体にて災害対策が具体的なものとなるよう、計画書やマニュアルの整備を行い、職員全員が備蓄品や避難経路について把握を行う。	適時、職員から意見を聞きながら管理者を中心にBCP及びマニュアルを整備する。現在の備蓄状態が適正か再確認を行う。	3ヶ月
3	13	ケア内容において、職員の知識や技術が足りない部分があり、また職員格差も見られる。能力の底上げを図り一定レベル以上のケア提供が望まれる。	職員全員が、入居者の望むケア内容をスムーズに提供できるよう、知識や技術の習得に努める。	職員に望まれる種々の知識・技術に着き、どの部分が弱いのかを確認すると共に、職員自身がどのような勉強を望むかについても確認し、研修会の実施や参加など積極的に行っている、職務へのフィードバックを図る。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。